

生 活

生活科における評価の工夫

理論編

- 1 教科目標、評価の観点及びその趣旨等
- 2 生活科の学年目標（2学年のくくり）
- 3 生活科の内容（2学年で指導）
- 4 学習指導要領の内容と、内容のまとめりごとの評価規準の設定

実践編

「動植物の飼育・栽培」についての具体的実践例

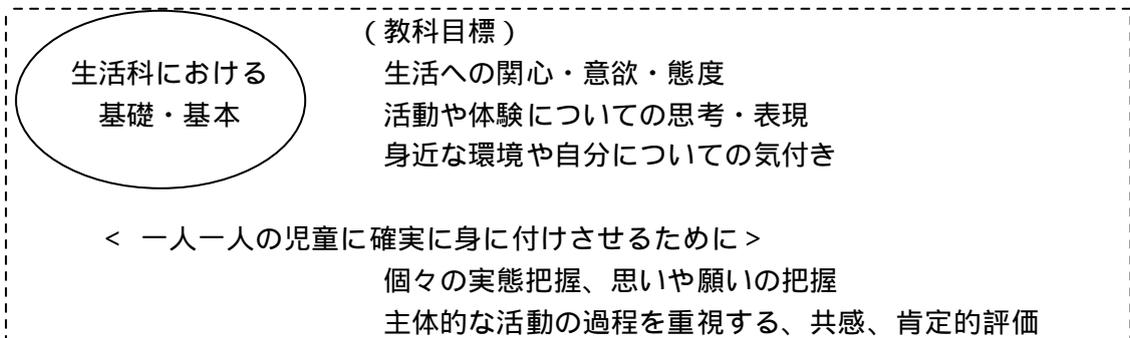
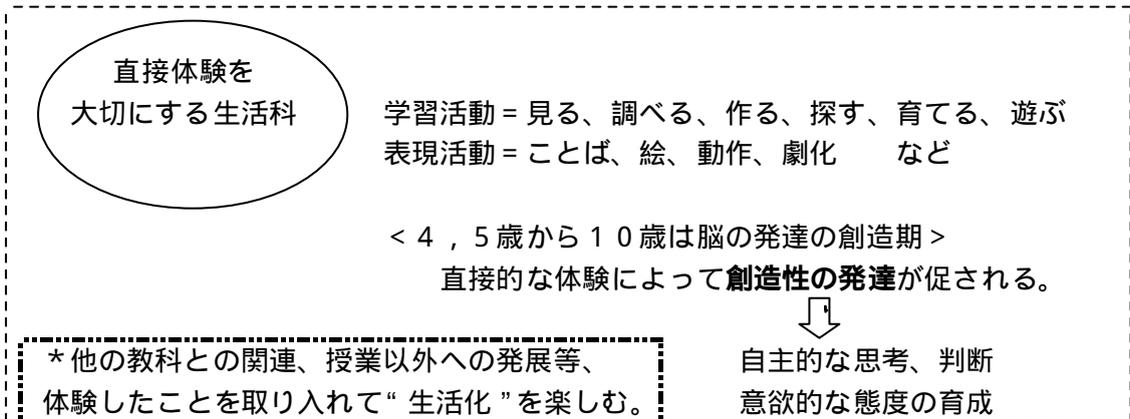
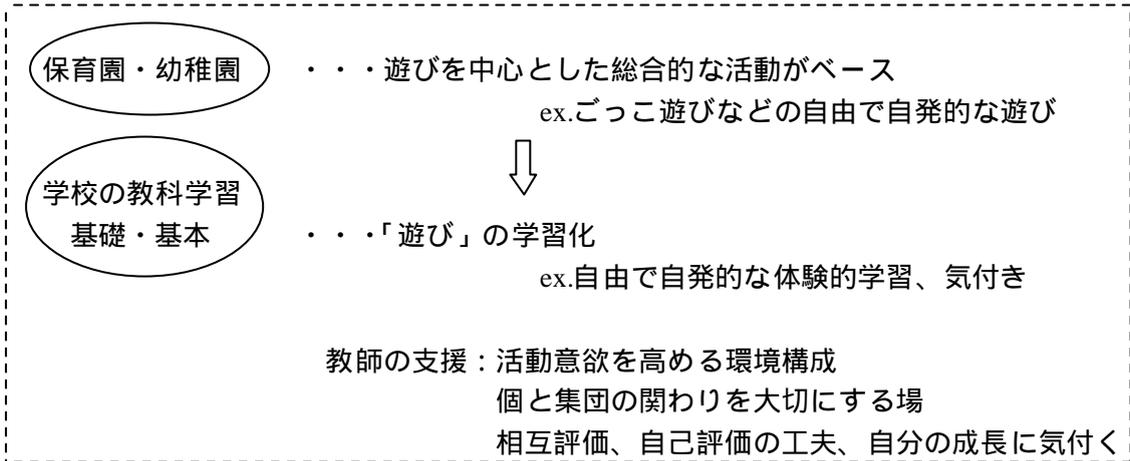
資料編

- 1 第1学年生活科の年間指導計画例
- 2 単元指導計画例
- 3 本時の学習指導案例
- 4 ワークシート（発表メモ）
- 5 本時案とその時間の個々の児童評価の実際例

理論編

1 教科目標、評価の観点及びその趣旨等

- ・生活への関心・意欲・態度
- ・活動や体験についての思考・表現
- ・身近な環境や自分についての気付き



2 生活科の学年目標（2 学年のくくり）

- (1) 自分や身近な人々や社会とのかかわり } 自分とのかかわりで
(2) 自分と身近な自然とのかかわり } 学習する
(3) 直接かかわる活動や体験と表現 ⇨ 活動や体験と表現を一体化する

【評価の観点及びその趣旨】

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
身近な環境や自分自身に関心を持ち、進んでそれらとのかかわり、楽しく学習や生活をしようとする。	具体的な活動や体験について、自分なりに考えたり、工夫したりして、それをすなおに表現する。	具体的な活動や体験をしながら、自分と身近な人、社会、自然とのかかわり及び自分自身のよさなどに気付いている。

3 生活科の内容（2 学年で指導）

- (1) 「学校と生活」
(2) 「家庭と生活」
(3) 「地域と生活」
(4) 「公共物や公共の施設の利用」
(5) 「季節の変化と生活」
(6) 「自然や物を使った遊び」
(7) 「動植物の飼育・栽培」 2 学年にわたって取り扱う
(8) 「自分の成長」

< 各学校で指導内容を組み立てるときの留意点 >

他の 7 項目の内容をどの学年でどう扱うか、見通しをもって組み立てる。
子どもや地域の実態に応じて考える。
長期的な見通しのもと、ゆとりをもって活動や体験をさせる。

4 学習指導要領の内容と、内容のまとめりごとの評価規準の設定

(1) 「学校と生活」

【学習指導要領の内容】

学校の施設の様子及び先生など学校生活を支えている人々や友達のことが分かり、楽しく安心して遊びや生活ができるようにするとともに、通学路の様子などに関心をもち、安全な登下校ができるようにする。

【「学校と生活」の評価規準】

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
学校の施設、学校生活を支えている人々や友達及び通学路の様子などに関心をもち、楽しく学校生活を送ろうとしている。	楽しく安心して遊びや生活及び登下校ができるように工夫するとともに、学校生活の楽しさを身近な人に伝えることができる。	学校の施設、学校生活を支えている人や友達及び通学路の様子などが分かっている。

(2)「家庭と生活」

【学習指導要領の内容】

家庭生活を支えている家族のことや自分でできることなどについて考え、自分の役割を積極的に果たすとともに、規則正しく健康に気を付けて生活することができるようにする。

【「家庭と生活」の評価規準】

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
家庭生活に関心をもち、自分の役割を積極的に果たそうとするとともに、規則正しく健康に気を付けて生活しようとする。	家庭生活を支えている家族のことや、自分でできることなどについて考え、それを実現することができる。	家庭生活を支えている家族のことや自分でできることなどに気付いている。

(3)「地域と生活」

【学習指導要領の内容】

自分たちの生活は地域の人々や様々な場所とかかわっていることが分かり、それらに親しみをもち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする。

【「地域と生活」の評価規準】

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
地域の人々や様々な場所に親しみをもってかかわり、自分の生活を広げようとしている。	地域の人々や様々な場所と適切にかかわることや、安全に生活することについて考え、それを表現することができる。	自分たちの生活は、地域の人々や様々な場所とかかわりをもっていることが分かっている。

(4)「公共物や公共の施設の利用」

【学習指導要領の内容】

公共物や公共施設はみんなのものであることやそれを支えている人々がいることなどが分かり、それらを大切に、安全に気を付けて正しく利用することができるようにする。

【「公共物や公共の施設の利用」の評価規準】

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
公共物や公共施設を大切に利用しようとしている。	公共物や公共施設の利用の仕方について考えたり、工夫したりして、安全に気を付けて正しく利用することができる。	公共物や公共の施設はみんなのものであることや、それを支えている人々がいることが分かっている。

(5)「季節の変化と生活」

【学習指導要領の内容】

身近な自然を観察したり、季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりして、四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに関心、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできるようにする。

【「季節の変化と生活」の評価規準】

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
身近な自然を観察したり季節や地域の行事にかかわる活動をしたりしようとしている。	四季の変化や季節に応じて、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできる。	四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに関心している。

(6)「自然や物を使った遊び」

【学習指導要領の内容】

身の回りの自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして遊びを工夫し、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。

【「自然や物を使った遊び」の評価規準】

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
いろいろな遊びに関心を持ち、楽しく遊ぼうとしている。	身の回りの自然や身近にある物を使うなどして遊びを工夫し、みんなで楽しむとともに、それを表現できる。	身の回りの自然や身近にある物を使うなどして遊べることや、みんなで遊ぶと楽しいことに気付いている。

(7)「動植物の飼育・栽培」

【学習指導要領の内容】

動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心を持ち、また、それらは生命を持っていることや成長していることに気づき、生き物への親しみをもち、大切にすることができるようにする。

【「動植物の飼育・栽培」の評価規準】

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気づき
生き物やそれらの育つ場所、変化や成長の様子に関心を持ち、親しんだり大切にしたりしようとしている。	工夫して動物を飼ったり植物を育てたりするとともに、世話をしたことや生き物のことなどについて表現することができる。	動植物は生命を持っていることや成長していること、動植物の世話の仕方などに気付いている。

(8)「自分の成長」

【学習指導要領の内容】

多くの人の支えにより自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かり、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつとともに、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活することができるようにする。

【「自分の成長」の評価規準】

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気づき
自分の成長に関心を持ち、これまでの成長を振り返ったり、これからの成長への願いをもって意欲的に生活したりしようとしている。	工夫して自分の成長を振り返るとともに、分かったことや成長を支えてくれた人々への感謝の気持ちなどを表現することができる。	大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かり、これまでの生活や成長を支えてくれた多くの人がいることに気付いている。

< 評価と評定、授業改善 >

その授業の即時評価

1時間の中でのチェックは評価ではない。

評価と指導の一体化を図る。

「その場でひと言与える」「問いかける」「聞き取る」等の指導を重ねる。

観点別学習状況の評価 目標に準拠した評価

(生活科評価のポイント)

一人一人の子どものよさを見付ける。

個々の子どもの学習前と学習後と比較し、その変容の実態(成長変化)を評価する。

評価のフィードバック機能を生かし、授業内容も評価して、次の活動や指導に取り入れ、授業づくりに役立てる。

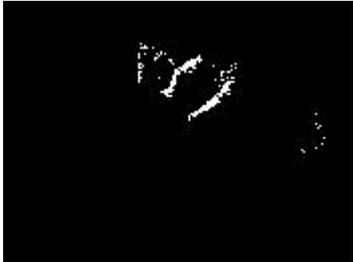
授業の改善

児童の主体的な活動を支援する。

実践編

「動植物の飼育・栽培」についての具体的実践例

『げんきにそだて』……うさぎの飼育（園部町立西本梅小学校1年生の実践）

授業の流れ	児童の活動と指導・支援のポイント
<p data-bbox="244 689 576 719">< 2年生からの働きかけ ></p> <p data-bbox="244 770 727 799">「ぴよんを1年生が育ててください。」</p> <p data-bbox="312 853 557 882">うさぎの『ぴよん』</p>  <p data-bbox="244 1229 608 1258">< 教師の意図的な働きかけ ></p> <p data-bbox="244 1270 628 1299">「ぴよんはいつからいるの？」</p> <p data-bbox="244 1310 783 1384">「ひとりぼっちのぴよんにしてあげられることは？」</p> <p data-bbox="437 1391 485 1458">↓</p> <div data-bbox="317 1471 604 1556" style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">調べ学習への発展 えさづくり</div> 	<div data-bbox="965 743 1310 913" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"><ul style="list-style-type: none">・聞いて世話する。・調べて世話する。</div> <p data-bbox="1102 920 1150 965" style="text-align: center;">↓</p> <p data-bbox="979 981 1310 1055" style="text-align: center;">班当番で「自主的な行動」の芽生え</p> <div data-bbox="970 1093 1318 1272" style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"><p>子どもとともに作っていく学習であることを担任が押さえておく。</p></div> <p data-bbox="919 1476 1337 1550" style="margin-top: 20px;">・児童の思いや願いから出発した「体験的な学習活動」とする。</p> <div data-bbox="959 1592 1321 1686" style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"><p>児童のつぶやき、思いを大切に汲み取る。</p></div>

お友だち探し



町内の学校へ手紙を書こう



返事をもとにお友だちの候補をきめる



< 発展 >

お友だちのうさぎをもらいに行こう



- ・「問題解決的な学習」
- ・ 児童一人一人のつぶやき
- ・ 活動する楽しさの共感

次の学習の手がかりを逃さず
にキャッチし、次の展開に生
かす。

担任の思いを家庭に知らせる
ことで、保護者からの協力を
得ることができる。

- ・「個を生かした表現活動」

・ 学習が進み、家族や友達と話し
合う中で、自ら迎えに行きたい
気持ちを高め、話し合う。

人と出会い、つながり合う中
で、新たな学習の動機付けが
生まれる。

< 単元を通して特に学ばせたいこと >

一人一人に自分の考えをもたせたり、自己決定をさせたりすること。

試行錯誤することは大切であるということ。

学級や学校の状況を考慮しながら、自己決定の経験を積み上げていくこと。

< 評価のポイント >

自発的な活動

意欲的な発言

話し合い活動の発表

保護者等参観者に向けての発表

< 評価の工夫 >

次の活動につながる動機付けをする。

ワークシートを工夫する。

< 記録の工夫 >

調べたことを教室に掲示する。

発表したいことをカードに書く。

デジタルカメラで成長を記録する。

作文等を学級通信で紹介する。

生活科学習指導案

指導者

- 1 日時 平成 年 月 日() 校時
- 2 場所 1年生教室
- 3 対象 第1学年 (男子 名 女子 名 計 名)
- 4 単元名 げんきにそだて

5 単元目標

- (1) 「うさぎの飼育」にかかわる様々な活動を、楽しみながら取り組もうとする。
(生活への関心・意欲・態度)
- (2) うさぎを飼ったりそのエサである野菜を育てたりする活動を通して、自分なりに調べたり考えたりし、発見したことや分かったことを自分らしく表現することができる。
(活動や体験についての思考・表現)
- (3) うさぎを飼ったりそのエサである野菜を育てたりして、うさぎの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもつとともに、みんなといっしょに活動しがんばってきた自分に気付くことができる。
(身近な環境や自分についての気付き)

6 指導にあたって

(1) 単元について

児童は、4月から生活科を中心にいろいろな生き物にかかわってきた。春から夏にかけて、校庭や家で見つけたカエルやカナヘビ、カタツムリ、クワガタなどを、思い思いに育ててきた。また、一方で、2年生から、学校にいる2羽のウサギのうち「オスのぴよんを1年生が育ててください」と申し出があり、その世話も始めた。2年生に教えてもらったり、自分の経験を頼りに飼育をしたりしていたが、図書室に行くようになってからは、育てている生き物に関連する本を自分で見つけ出し、そこで知ったことや調べたことも少しずつ生かしながら世話をしている。

2学期に入り、ウサギの飼育当番を班を作って決めた。すると、班のメンバーで世話をいつするか相談したり、家からエサを持って来たりするなど、自主的で責任ある行動をとる児童が出てきた。しかし、単に育てているだけの児童が多かったので、児童にゆさぶりをかけ、ウサギの飼育を通しての活動をもう少し広げてみることにした。

「ぴよんはいつから西本梅小学校にいるの？」

「ひとりぼっちで小屋にいるぴよんに、みんながしてあげられることは？」

という教師の2つ投げかけから、ぴよんの生育歴をたどる学習や、エサの確保のための冬野菜作りが始まった。また、ぴよんのお友だち探しを通して、町内の学校に目を向け、児童が周囲に働きかける活動へと広がりが出てきている。町内の各学校に手紙を出し、うさぎがもらえそうな学校を探したらどうかという児童の意見から、代表の児童が、実際に手紙を出した。そのうちのいくつかの学校から返事が来たので、これを手掛かりに、どこからうさぎのお友だちを迎えるのかを児童に考えさせたい。

ぴよんのお友だち探しの活動を通して、他の学校の1年生との交流にもつなげたいと考えている。手紙のやりとりだけでなく、実際に訪問したり訪問されたりする出会いの場をつくり、その中で人とかがかわる力も付けていきたい。

生活科は、体験的な学習である。しかし、その体験は、問題解決的な学習とつながっていないなければならない。それを支える大事な活動が、話し合いである。子どもの思いや願いから出発した「豊かな体験活動」、感動を共有し合い、次の学習の方向を探る「話し合い活動」、自らの思いを素直に、かつ創造的に伝える「個を生かした表現活動」の3つを柱にしながら学習を展開していきたい。

(2) 児童の実態

素直で優しい児童が多い。休み時間になると、石、草、花などを使ってごっこ遊びをしたり、生き物を探したりと、外へ飛び出し、屋外で自然とかがわって活動することができる。

男子は、身近な生き物が大好きな児童が多く、季節ごとに校庭で興味をもつ生き物を見つけてきては、世話を続けている。思いつきや自分の経験からだけでなく、学校の図書室で本を見つけてきたり、町立の図書館から本を探してきたり、高学年の児童に聞きに行ったりして、調べたことを飼育活動に生かす姿も見られるようになってきた。うさぎに関しては、男子よりも女子の方が関心が高い。

学級の児童の中には、指示されないと自分で考えて行動できない児童が多い。学習面でも生活面でも、一つ一つの行動に対してすぐに「どうするんですか。」と聞きに来る場面が目立つ。このことから生活科では、児童一人一人に自分の考えをもたせたり、自己決定させたりすることを、特に大事にしていきたい。

4 ワークシート(発表メモ)

* 発表したいことをテーマを選んで意志表示する。いくつ発表してもよい。

 <p>がんばったよ</p>	 <p>わかったよ</p>
---	---

(カット)

ふゆにうさぎのえさがなくなるか

ら、1年のはたけにがんばって

こまつなのたねをまいたよ。

(なまえ)

(カット)

わたしは、よそのがっこうの

うさぎのなまえがわかって、

よかったです。

(なまえ)

こまったよ

(カット)

うさぎをせわしているとき、

ときどき にげたり、ひっかいたり

したからこまったよ。

(なまえ)

うれしかったよ

(カット)

うさぎをだいたとき、ふわふわ

しました。とても あったかくて

きもちよかったよ。

(なまえ)

5 本時案とその時間の個々の児童評価の実際例

個々の児童の実態と付けたい力

児童名	生活科に関わる学習課題	本単元で付けたい力	教師の支援	評価
A	・飼育当番の活動をまじめにがんばれる。文字の読み書きが苦手だったが、書け	・話し合い活動の場面で自分なりの考えをもち、みんなに伝えようとする力を付	・自分の考えをもつ場面で、個別に声かけをする。 ・表現活動のと	で評価

	ると表現活動に意欲的になってきている。自分の考えをもつのに時間がかかる。	ける。	き、文字で文章化することに戸惑うので、個別にかかわり、自分の思いに表現を近付ける支援をする。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で何かを決めるとき、友達と同じものにする。生き物も好きだが、自分一人では世話ができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が本当にしたいことを明確にし、自分らしい考えがもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表のとき声が小さくなるので、肯定的な励ましの声かけをする。 ・発表の機会を多くし、自信をもたせる。
C	<ul style="list-style-type: none"> ・指示がないと行動しにくい。 ・自己決定力が弱く、教師に助けを求めることが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己決定できる力を付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で決めて行動する場面を多く与える。 ・選択肢を与え、自分で決めさせる。
D	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の物を使ったごっこ遊びなどを工夫しながら遊んでいる。 ・うさぎの单元について特に関心が強い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思いや考えを積極的に発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家のうさぎについて調べてきたことを手がかりに、調べ学習の自信をもたせ、これからの意欲につなげる。



写真 1



写真2



写真3

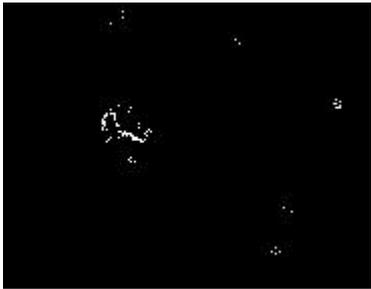


写真4

実践編

「動植物の飼育・栽培」についての具体的実践例

『げんきにそだて』……うさぎの飼育（園部町立西本梅小学校1年生の実践）

授業の流れ	児童の活動と指導・支援のポイント
<p>< 2年生からの働きかけ ></p> <p>「ぴよんを1年生が育ててください。」</p> <p>うさぎの『ぴよん』</p>  <p>< 教師の意図的な働きかけ ></p> <p>「ぴよんはいつからいるの？」</p> <p>「ひとりぼっちのぴよんにしてあげられることは？」</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">調べ学習への発展 えさづくり</div> 	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"><ul style="list-style-type: none">・聞いて世話する。・調べて世話する。</div> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>班当番で「自主的な行動」の芽生え</p> <div style="border: 2px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"><p>子どもとともに作っていく学習であることを担任が押さえておく。</p></div> <ul style="list-style-type: none">・児童の思いや願いから出発した「体験的な学習活動」とする。 <div style="border: 2px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"><p>児童のつぶやき、思いを大切に汲み取る。</p></div>

お友だち探し



町内の学校へ手紙を書こう



返事をもとにお友だちの候補をきめる



< 発展 >

お友だちのうさぎをもらいに行こう



- ・「問題解決的な学習」
- ・児童一人一人のつぶやき
- ・活動する楽しさの共感

次の学習の手がかりを逃さず
にキャッチし、次の展開に生
かす。

担任の思いを家庭に知らせる
ことで、保護者からの協力を
得ることができる。

- ・「個を生かした表現活動」

- ・学習が進み、家族や友達と話し
合う中で、自ら迎えに行きたい
気持ちを高め、話し合う。

人と出会い、つながり合う中
で、新たな学習の動機付けが
生まれる。

< 単元を通して特に学ばせたいこと >

一人一人に自分の考えをもたせたり、自己決定をさせたりすること。

試行錯誤することは大切であるということ。

学級や学校の状況を考慮しながら、自己決定の経験を積み上げていくこと。

< 評価のポイント >

自発的な活動

意欲的な発言

話し合い活動の発表

保護者等参観者に向けての発表

< 評価の工夫 >

次の活動につながる動機付けをする。

ワークシートを工夫する。

< 記録の工夫 >

調べたことを教室に掲示する。

発表したいことをカードに書く。

デジタルカメラで成長を記録する。

作文等を学級通信で紹介する。

2 単元指導計画例

	指導内容	学習活動	学習活動における具体的評価規準等		
			(観点)評価規準 <評価の方法>	十分に満足できると判断される状況	努力を要する状況への手立て
1	うさぎについて関心をもたせ、問題意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> うさぎにしてやりたいことや調べてみたいことについて話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> うさぎにしてやりたいことや調べたいことを考えようとしている。(関心・意欲・態度)<発表> 	<ul style="list-style-type: none"> うさぎにしてやりたいことや調べたいことを考え、発表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 他の児童から出た考えの中から選ばせる。
		えさを忘れずにやったり、小屋の掃除をしっかりとりする。	えさの野菜を自分達で育てる。	お友だちをさがす	
2	うさぎのえさに関心をもたせる。	<ul style="list-style-type: none"> うさぎのえさに関心もち、野菜を育てる相談をする。 	<ul style="list-style-type: none"> うさぎのえさは、どんなものがよいか考え調べることができる。(思考・表現)<発表><行動> 	<ul style="list-style-type: none"> うさぎのえさは、どんなものよいか調べられる方法を考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 他の児童から出た方法から選んでもよいことを助言する。
3	お友だちを探す方法を考えさせる。	<ul style="list-style-type: none"> うさぎのお友だちを探す方法を相談する。 	<ul style="list-style-type: none"> うさぎのお友だちを探すにはどうしたらよいか、自分の考えをもつことができる。(思考・表現)<発表> 	<ul style="list-style-type: none"> うさぎのお友だちを探すにはどうしたらよいか、自分の考えを発表することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 以前いたうさぎがどのようにしてこの学校に来たか調べたことも思い出させ、考えさせる。
4 5 6	自分が特に関心をもったことを選ばせ追究させる。(個別) 他の生き物調べと関連させる。	<ul style="list-style-type: none"> うさぎのえさや飼い方を調べ、学級の人々に知らせる。 お友だちを探すためにいろいろな学校に手紙を出す。 	<ul style="list-style-type: none"> うさぎのえさや飼い方を図書の本やインターネットなどを使って調べたり、人に尋ねたりして調べようとしている。(思考・表現)<行動> うさぎのお友だちを探すために内容を考え、町内の学校の1年生に手紙を書くことができる。(思考・表現)<ワークシート><手紙> 	<ul style="list-style-type: none"> 自分なりの方法で調べ、学級の人々に分かりやすく工夫して伝えることができる。 自分の学校のうさぎのことも知らせながら、町内の学校の1年生に学校で飼っているうさぎのことを尋ねる手紙を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書指導員と事前に連絡をとり、関係する本を図書室に用意してもらう。 どのようなことを知りたいかみんなの意見も聞いてみることをアドバイスする
7	野菜を育てるための畑の準備を考えさせ、行動させる。	<ul style="list-style-type: none"> 畑で野菜を育てる準備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> みんなと協力しながら、自分でできる方法で畑を耕そうとしている。(関心・意欲・態度)<行動> 	<ul style="list-style-type: none"> みんなと協力しながら、自分でできる方法で畑を耕し、それが野菜が育つために大切であることが分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> 土に触れることを嫌う児童には、教師が側で声かけをしながら、一緒に耕す。
8	ゲストティーチャーから教わった方法で、種まきをさせる。	<ul style="list-style-type: none"> 畑で野菜の種まきをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ゲストティーチャーに方法を教わり、種まきをすることができる。(思考・表現)<行動> 	<ul style="list-style-type: none"> 教わった方法がその種に適したまき方であることが分かり、種まきができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 種まきに集中できない児童には、教師がそばで声かけをしながら一緒に種まきをする。

9	野菜の生長に関心をもたせ、日々の世話をさせる。	・畑の様子を見に行き、世話をする。	・野菜の生長に関心をもち、日々の世話をしようとする。 (関心・意欲・態度) <行動> <ワークシート>	・畑に野菜の様子を何度も見に行き、その生長に関心をもって日々の世話をしようとする。	・畑が変化していることに気付いた児童の声を紹介したり、教師が声かけをしたりして、畑へいっしょに行く。
10 11 12	学習発表会でみんなに何をどのように伝えるか考えさせる。 (全体) (グループ) (個別)	・学習発表会でみんなに何をどのように伝えるか考え、話し合いをし準備をする。	・自分がみんなに伝えたいことを考え、自分らしい方法で伝える準備ができる。 (思考・表現) <発表> <行動> <伝えるために作った作品>	・自分がみんなに伝えたいことを考え、自分らしい方法で伝える準備をし、他の児童にも伝えようとする。	・いくつかの方法を紹介しその中から選んでもよいことを伝える。 ・他の児童の方法を参考にさせる。
13 本時	うさぎのお友だちをどう自らの考えをもたせる。 <本時>	・うさぎのお友だちをどう自らの考えをもたせるための相談をする。	・いろいろな学校からの返事をもとに、うさぎのお友だちをどうしたいのか、自分自らの考えをもつことができる。 (思考・表現) <発表>	・いろいろな学校からの返事をもとに、うさぎのお友だちをどうしたいのか、自分自らの考えをもち、他の児童の考えも聞くことができる。	・他の児童の考えを参考にし、自分ならどうしたらいいと思うか考えさせる。
14	うさぎをもらう学校との交流について考えさせる。	・うさぎをもらう学校と交流をする相談をする。	・うさぎをもらう学校とどんな交流をしたか、自分自らの考えをもつことができる。 (思考・表現) <発表>	・うさぎをもらう学校とどんな交流をしたか自分自らの考えをもち、発表することができる。	・交流の方法についていくつか例を示す。
15 16	うさぎをもらう学校との交流の準備をさせる。	・うさぎをもらう学校と交流の準備をする。	・交流を楽しみにしながら、準備をしようとする。 (関心・意欲・態度) <行動>	・交流を楽しみにしながら、積極的に準備をしようとする。	・交流に不安をもつ児童には、その内容を尋ね、不安をできるだけ取り除くように声をかける。
17 18	うさぎをもらう学校との交流に積極的に参加させる。	・うさぎをもらう学校と交流する。	・うさぎをもらう学校の1年生と楽しく交流しようとする。 (関心・意欲・態度) <行動>	・うさぎをもらう学校の1年生と積極的に関わりながら楽しく交流している。	・積極的にかわりにくい児童には、その場で励ましの声をかける。
19	うさぎをもらう学校との交流を振り返らせる。	・うさぎをもらう学校との交流を振り返る。	・うさぎをもらう学校との交流や、自分のがんばったことを振り返ることができる。 (思考・表現) <発表> <ワークシート>	・交流を振り返り、自分の思いを発表したり、ワークシートに記入したり、プリントにまとめたりして表すことができる。	・みんなで交流のことを話し合ったり、写真を見せたりしながら自分自らのしたことを思い出させる。
20	もらってきたうさぎを大事に世話をする方法を具体的に考えさせる。	・もらってきたうさぎを大事に世話をしていくにはどうしたらよいか話し合う。	・もらってきたうさぎを大事に世話をするため、その方法を考えることができる。 (思考・判断) <発表> <ワークシート>	・もらってきたうさぎの世話について自分自らの考えをもち、発表したり、ワークシートに記入したり、プリントにまとめたりして表すことができる。	・うさぎの飼育に関する本で調べた児童の考えを紹介するなどして、世話をするための具体的な方法を考えさせる。

3 本時の学習指導案例

生活科学習指導案

指導者

- 1 日時 平成 年 月 日 () 校時
- 2 場所 1年生教室
- 3 対象 第1学年 (男子 名 女子 名 計 名)
- 4 単元名 げんきにそだて

5 単元目標

- (1) 「うさぎの飼育」にかかわる様々な活動を、楽しみながら取り組もうとする。
(生活への関心・意欲・態度)
- (2) うさぎを飼ったりそのエサである野菜を育てたりする活動を通して、自分なりに調べたり考えたりし、発見したことや分かったことを自分らしく表現することができる。
(活動や体験についての思考・表現)
- (3) うさぎを飼ったりそのエサである野菜を育てたりして、うさぎの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもつとともに、みんなといっしょに活動しがんばってきた自分に気付くことができる。
(身近な環境や自分についての気付き)

6 指導にあたって

(1) 単元について

児童は、4月から生活科を中心にいろいろな生き物にかかわってきた。春から夏にかけて、校庭や家をつかまえたカエルやカナヘビ、カタツムリ、クワガタなどを、思い思いに育ててきた。また、一方で、2年生から、学校にいる2羽のウサギのうち「オスのぴよんを1年生が育ててください」と申し出があり、その世話も始めた。2年生に教えてもらったり、自分の経験を頼りに飼育をしたりしていたが、図書室に行くようになってからは、育てている生き物に関連する本を自分で見つけ出し、そこで知ったことや調べたことも少しずつ生かしながら世話をしている。

2学期に入り、ウサギの飼育当番を班を作って決めた。すると、班のメンバーで世話をいつするか相談したり、家からエサを持って来たりするなど、自主的で責任ある行動をとる児童が出てきた。しかし、単に育てているだけの児童が多かったので、児童にゆさぶりをかけ、ウサギの飼育を通しての活動をもう少し広げてみることにした。

「ぴよんはいつから西本梅小学校にいるの？」

「ひとりぼっちで小屋にいるぴよんに、みんながしてあげられることは？」

という教師の2つ投げかけから、ぴよんの生育歴をたどる学習や、エサの確保のための冬野菜作りが始まった。また、ぴよんのお友だち探しを通して、町内の学校に目を

向け、児童が周囲に働きかける活動へと広がりが出てきている。町内の各学校に手紙を出し、うさぎがもらえそうな学校を探したらどうかという児童の意見から、代表の児童が、実際に手紙を出した。そのうちのいくつかの学校から返事が来たので、これを手掛かりに、どこからうさぎのお友だちを迎えるのかを児童に考えさせたい。

ぴよんのお友だち探しの活動を通して、他の学校の1年生との交流にもつなげたいと考えている。手紙のやりとりだけでなく、実際に訪問したり訪問されたりする出会いの場をつくり、その中で人とかがわる力も付けていきたい。

生活科は、体験的な学習である。しかし、その体験は、問題解決的な学習とつながっていなければならない。それを支える大事な活動が、話し合いである。子どもの思いや願いから出発した「豊かな体験活動」、感動を共有し合い、次の学習の方向を探る「話し合い活動」、自らの思いを素直に、かつ創造的に伝える「個を生かした表現活動」の3つを柱にしながら学習を展開していきたい。

(2) 児童の実態

素直で優しい児童が多い。休み時間になると、石、草、花などを使ってごっこ遊びをしたり、生き物を探したりと、外へ飛び出し、屋外で自然とかがわって活動することができる。

男子は、身近な生き物が大好きな児童が多く、季節ごとに校庭で興味をもつ生き物を見付けてきては、世話を続けている。思いつきや自分の経験からだけでなく、学校の図書室で本を見つけてきたり、町立の図書館から本を探してきたり、高学年の児童に聞きに行ったりして、調べたことを飼育活動に生かす姿も見られるようになってきた。うさぎに関しては、男子よりも女子の方が関心が高い。

学級の児童の中には、指示されないと自分で考えて行動できない児童が多い。学習面でも生活面でも、一つ一つの行動に対してすぐに「どうするんですか。」と聞きに来る場面が目立つ。このことから生活科では、児童一人一人に自分の考えをもたせたり、自己決定させたりすることを、特に大事にしていきたい。

4 ワークシート(発表メモ)

*発表したいことをテーマを選んで意志表示する。いくつ発表してもよい。

がんばったよ

(カット)

ふゆにうさぎのえさがなくなるか
ら、1年のはたけにがんばって
こまつなのたねをまいたよ。

(なまえ)

わかったよ

(カット)

わたしは、よそのがっこうの
うさぎのなまえがわかって、
よかったです。

(なまえ)

こまったよ

(カット)

うさぎをせわしているとき、
ときどき にげたり、ひっかいたり
したからこまったよ。

(なまえ)

うれしかったよ

(カット)

うさぎをだいたとき、ふわふわ
しました。とても あったかくて
きもちよかったよ。

(なまえ)

5 本時案とその時間の個々の児童評価の実際例

個々の児童の実態と付けたい力

児 童 名	生活科に関わる 学習課題	本単元で つけたい力	教師の支援	評 価
A	<ul style="list-style-type: none"> ・飼育当番の活動をまじめにがんばれる。文字の読み書きが苦手だったが、書けると表現活動に意欲的になってきている。自分の考えをもつのに時間がかかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動の場面で自分なりの考えをもち、みんなに伝えようとする力を付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをもつ場面で、個別に声かけをする。 ・表現活動のとき、文字で文章化することに戸惑うので、個別にかかわり、自分の思いに表現を近付ける支援をする。 	で評価
B	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で何かを決めるとき、友達と同じものにしようとする。生き物も好きだが、自分一人では世話ができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が本当にしたいことを明確にし、自分らしい考えがもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表のとき声が小さくなるので、肯定的な励ましの声かけをする。 ・発表の機会を多くし、自信をもたせる。 	
C	<ul style="list-style-type: none"> ・指示がないと行動しにくい。 ・自己決定力が弱く、教師に助けを求めることが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己決定できる力を付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で決めて行動する場面を多く与える。 ・選択肢を与え、自分で決めさせる。 	
D	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の物を使ったごっこ遊びなどを工夫しながら遊んでいる。 ・うさぎの单元について特に関心が強い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思いや考えを積極的に発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家のうさぎについて調べてきたことを手がかりに、調べ学習の自信をもたせ、これからの意欲につなげる。 	

1 第1学年生活科年間指導計画例

月	単 元 名	時数	目 標	言 語 評 価 規 準			備 考
				生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分に付いての気付き	
4 ・ 5	どきどきわくわく がっこうたんけん ともだちとあそぼう がっこうたんけんを しよう がっきゅうえんもみ つけたよ たうえをしよう	18	学校の施設や先生、友達、大切に 育てている生き物や植物のことが 分かり、仲良く遊んだり、楽しく 活動したりすることができる。	校内のものや人を自分から探し、 かかわろうとしている。 校庭に咲いている花や飼っている 動物と進んでかかわろうとする。 育てたい種や苗を自分で選ぼうと している。 2年生のお米作りについて関心を もとうとしている。	学校探検で発見したことを絵に描 いて発表することができる。 花や野菜の世話をしながら、気づ いたことを絵で表すことができる。 田植えを体験し、稲作りについて 一緒に考えることができる。	学校には、いろいろな施設や人 人がいることに気付いている。 学校の樹木や草花、いろいろな 設備はみんなのものであること に気付いている。 田んぼの様子に気付いている。	校舎 グラウンド 飼育舎 花壇 学級園 環境
6 ・ 7	あそびにいこうよ がっこうのまわりに でかけよう くさばなやむしとあ そぼう どうぶつとあそぼう	20	学校の周りの公共施設や、飼育舎 などで、自然や人、生き物たちと かわりながら楽しく遊ぶことが できる。	公園の道具を使って仲良く遊ぼう としている。 好きな木や草花、虫などを見付け ようとしている。 飼育舎の動物と進んで遊ぼうとし ている。	身近な自然や遊具を使って、工夫 した遊びができる。 飼育舎の動物や自分で見つけた遊 びを自分なりに工夫して紹介す ることができる。	活動の中で安全に注意すること や、後片付けの必要性に気付い ている。 自然と遊ぶことの楽しさに気付 いている。 飼育舎の動物の命を守ることの 大切さに気付いている。	アスレチ ック広場 飼育舎 うさぎ 環境
9	おおきくなったね いきものさん いきものさんがだい へんしん へんしんしたことし らせよう	10	自分たちで育ててきた生き物の成 長を振り返ったり、花や野菜の収 穫を通して、育ててきた喜びを味 わったりして、飼育・栽培への新 たな意欲をもつことができる。	育ててきた動物や野菜、花の成長 を喜び、意欲をもって世話をし続 けようとする。	生き物の成長や変化を文や絵など 自分なりに工夫して表現するこ とができる。 生き物の気持ちになって世話の仕 方を考えることができる。	花によって種の形、大きさ、取 れる数に違いがあることに気付 いている。 春からの成長に気付いている。	飼育舎 草むら 花壇 学級園
10 ・ 11	あきをみつけよう アスレチックひろば のあきみつけ あきたんけんにか かけよう いねかりをしよう。 あきとあそぼう・せ いかつたいけんがっ こう かんどうはっぴょう かい	24	アスレチック広場や瑠璃溪で 探検し、自然の変化に気付き、 落ち葉や木の枝、木の実を使って いろいろな造形活動ができる。 稲刈りから脱穀までの様子が分か る。	秋の自然にすすんで働きかけよう とする。 秋探検をする計画を立てようとし る。 お米の収穫について関心をもとう とする。 瑠璃溪で、みんなで楽しく秋と遊 ぼうとする。 楽しく遊んだことや、作ったこと を発表しようとする。	秋の自然を生かして楽しく遊んだ り活動したりできる。 秋探検を自分なりに工夫して表現 できる。 稲刈り脱穀などを体験し、考えた ことを表現できる。 木の葉、木の実、木の枝など自然 物でダイナミックな造形活動がで きる。 瑠璃溪での体験をペープサートや 紙芝居などで表現できる。	季節の変化に気付いている。 自然の中には、生活を楽しくす る材料がたくさんあることに気 付いている。 田の稲の変化に気付いている。 2年生や全校児童といっしょに 活動する楽しさやよさに気付い ている。 活動の中で気付いたことについ て話し合っている。	アスレチ ック広場 瑠璃溪
12 ・ 1	ふゆもわくわく わたしのいえをたん けん できるようになった よ さむさにまげずげん きにあそぼう	15	家庭生活に関心をもち、進んで自 分の役割を果たすようにしたり、 冬の自然を生かした遊びを見つ け、友達と協力し合って冬の生活 を楽しんだりすることができる。	家族の仕事に関心をもち、調べよ うとしたり、自分で決めた仕事を 進んでしようとする。 冬のよさを生かした遊びや、昔の 遊びを見付けようとする。	家族や家族の様子を自分なりに工 夫して表したり、自分ができるこ とについて考え、チャレンジした ことを発表できる。 冬のよさを生かした遊びを工夫し たり、昔の遊びを調べ楽しんだり することができる。	家族は、それぞれ仕事を分担に て協力し合って生活しているこ とに気付き、自分でできること や、家族のためにがんばること を見付けている。 昔の遊びや、冬のよさを生かし た遊びの楽しさに気付いている。	
2 ・ 3	2年生へジャンプ！ ぼくは、もうおにい さん！ これがわたしの1年 間 2年生へむかってレ ッコー	15	一年間を振り返り、できるよう になったことや役割が増えたこと など、成長の足跡を確かめ合うと ともに、多くの人々の支えに気付く。 また進級する喜びや希望をもつこ とができる。	楽しみながら新しい1年生を迎え る準備に取り組もうとしている。 1年間を振り返り、自分の成長を 見付けたり、まとめたりしよう とする。 2年生に向かってしてみたいこと を見付けようとする。	新しい1年生に喜んでもらえるよ うなプレゼントと活動を考えるこ とができる。 自分の成長やがんばりを自分なり に工夫して表現することができる	新しい1年生を迎える準備をす ることで、上級生としての役割 に気付いている。 自分が1年間でさまざまな成長 と、友達の成長や変化に気付き、 よさを認め合っている。	半日入学 案内状 1年間の 思い出作 文 性教育・ 「わたし のたんじ ょう」